

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発 行

3年6月現在会員数
 返子地区 171名
 葉山地区 249名
 大船地区 449名
 (合計) 469名

3年6月号(227号)
 発行 者 萃
 根 岸 岳
 編 集 者 岳
 中 村 愛 岳

滝の坂支部と私

滝の坂支部 加藤溪岳

(詩吟との出会い)

昭和五十年六月の蒸し暑い日でした。当時葉山町の町会議員をしていられた、故佐久間溪岳先生が家に来られて「今夜遊びに来ないか」と誘われました。偶々休みでしたので、気楽に伺ったところ、自慢の喉を聞かせてくださいました。これが詩吟とはじめての出会いでした。以前「鞭声粛粛……」位は耳にした事もありましたが、身近に張りのある声を聞き、詩吟とは素晴らしいものだ—と感心したしだいです。

「よかったら、来週から練習にいらっしゃい」と言われましたが、果してあんな声が出るかなあと不安も半分。しかし、生来何にでも首をつっ込みたい性格の私ですので、すっかり乗り気になり、その日の来るのを楽しみに出掛けました。

初日には、私の他に初心者二名も加わり、三名でスタートしました。それからは『九月十日』を何度も何度も練習しました。私達は

余程物覚えが悪かったのでしょうか。それとも、これが基本だからガッチリ教えようとの先生の親心だったのでしょうか。とにかく、練習日の度に「去年の今夜……とこれだけを吟じ続けました。

(滝の坂支部誕生)

何も分らない我々でしたが、声を出す度に「よく声が出てきた」「口がよくあいている」と乗せられっぱなしで、半年たった十一月の葉山町文化祭には合吟で出場させて頂きました。この秋には、数名の仲間も増え、ここに滝の坂支部として誕生したのです。その後トントン拍子で会員も増え、先生のお陰で、県大会、全国大会と、色々な舞台にも立たせていただきました。それぞれすべてが、よい思い出として残っています。

しかし、五年後の昭和五十五年十二月に、突然溪岳先生が他界されてしまいました。やっと軌道にのったところでしたので、支部の将来は……と全員が心配し続けました。

幸い、上村象岳先生と佐久間爽岳先生が、後を引き継いで下さることになり、滝の坂支部も生まれ変わりました。現在は女性会員も増え、非常に家庭的で、和やかな支部に発展

致しました。そして先生を中心に、全員が心を一つにしての、まとまりのある支部は、私の誇りでもあります。

(皆伝へ)

最後に私事ですが、この春、やっと皆伝に昇任出来まして、雅号も先代の先生の名前をいただき、溪岳とさせて頂きました。今後この名前を汚さぬよう頑張っていきたいと思っております。今後共よろしく御指導の程お願い致します。

◎七月の行事予定

(岳風忘)

とき・7月1日(月)

ところ・諏訪地藏寺

碩心会から左記の方が合祀されます。

松井岳洋先生・加藤愛岳・鈴木心岳

(関東地区指導者講習会)

とき・7月6日(土)午後2時～5時

ところ・九段会館

講師・長谷川岳聖先生・根岸岳萃先生

参加資格・準師範以上

(第17回・全国選抜者大会)

とき・7月14日(日)

ところ・明治神宮記念会館

(第37回・夏期吟道講座)

とき・7月27日(土)28日(日)

9:45～5:30終了

ところ・九段会館

参加資格・奥伝以上

~~~~~○~~~~~

比呂伝△云ひりかる

5月5日(祝)11時より、堀内会館に於て

行われ、97名中57名が出席。

会長挨拶の中で、皆さんは碩心会の功勞者である。今後も交流と和を以て吟道の発展に協力してほしい旨の言葉があり、つづいて皆伝新取得者の紹介、議題に入り、そのあと和やかな懇親会で閉会となった。

常任任組理事△云ひりかる

5月22日(水)午後7時より、桜山下会館

に於て次の議題について審議されました。

- 1、平成二年度収支決算報告の件
- 2、平成三年度予算(案)の審議
- 3、平成三年度理事会開催の件、その他

## お願い

会長 根岸岳萃

最近他会の行事(記念行事等)も多くなり碩心会の方でも色々な関係から、個人的に他会行事に参加要請がある場合も多くなると思いますが。そして「どうしてあの人があの会に出たのか」という質問を受けて、私自身も始めてそれを知ったということが過去にもありました。説明すれば解る場合も誤解で、碩心会の「和」を乱す場合もあります。そこで、神奈川県本部関係、又はそれに近い関係の他会から要請され、出吟(舞)される場合は先方に「碩心会の約束事として一応会長に話して下さい」と申し上げて下さい。

私も皆さんが他会行事に参加され、その行事が盛会になることは強く望んでおります。然し他会の為に碩心会の和が乱れてはこまりますので、碩心会の和のためにぜひ協力をお願いします。自分の会の行事のために、他会の会員への個人参加要請は、会長に連絡することは常識で、それを犯した二・三の会長に抗議したこともあります。

以上

## 松井岳洋先生を偲ぶ

千葉 劔岳

故松井岳洋先生は、私達と同じ逗子の地に最後までおられた方であり、又わが所属する碩心会の生みの親であられた。その分身ともいふべき根岸先生が、折にふれて、私どもも知らない松井先生のプロフィールというか、会の創設時代からの経緯、先生の人柄、先生の特に愛した吟など、事細かに紹介され、これを基に私どもを指導されている関係上、つい先生のごことはすべて承知している錯覚におちいるが、強く印象に残っている点一、二をあげてみたい。

私の入門は昭和四十年初頭で、当時の会長は板倉さん、次いで三井先生、その次が現会長根岸先生である。私は当時会の師範であった根岸先生から、手ほどきを受け、現在に至っているが、松井先生の真のお人柄に接し、また、吟の真髓のようなものを会得しはじめたのは、昭和四十八年、準師範を取得し、その後、指導者一同、先生のご自宅で熱心な御指導を受けた頃から、そうではなかったか

と考えている。その前も勿論、いまの逗子A教場が逗子水道路にあった頃、先生は特別指導なされていたが、大先生でもあり、近ずき難い威厳があり、吟どころではなかった。

先生のご自宅で指導を受けられるようになったとき、急に親しみを覚え、また先生が、私どもが訪問する前に、湯茶の用意など自らなされ、その暖かいお人柄に感激したものである。

吟についても木村岳風祖宗範の真髓を伝授されることを重点とし、私どもは、祖宗範が直接指導なされている雰囲気を受けたものである。

その後総本部長の激職にあっても、こうした指導は続けられ、六十年代に入り桜山下会館で、次いで六代御前社務所にも変わって続けられた。御年八十四の後半まで、自転車で会場までお出でになり、吟道家としての真の姿を私どもに示して下さいました。

昭和六十三年、碩心会の記念吟道大会が計画されたとき、その年正月にスライド取材として、有志で活動したことがあった。私は運転者として逗子、葉山を駆けめぐった。有名な大野孤山先生との出会いの場（韻読発祥練

成の地）先生の吟の鍛練の岩場の撮影、昔、自ら立たれた場所の説明など、この時先生を中心に、中村幸岳先生と私と三人で、熊沢先生に写真を撮って貰った。これは最初で最後の写真となった。なお、この取材のあと、中村家で昼食を頂き、なごやかな中に、吟聖ともいふべき先生の御高説を拝聴したのが、強い思い出となっています。

右掲載のものは、去る四月号「松井岳洋先生を偲ぶ」に寄せられたもので、紙面の都合上掲載できなかった部分を、今回掲載させていただきます。

### 歴史あれこれ・六代御前

沼津の千本松原という所に「六代松の碑」というのがある。これが「平家物語」の巻末近くに描かれたエピソードに由来するものだという。平維盛の子、六代が鎌倉に護送される途中、千本松原で処刑されようとしたところ、文覚上人の命乞いにより、助命された所だという。しかし六代は、結局は逗子の田越川畔で斬られ、平家の子孫が絶えたと「平家物語」は記している。

秋元記

練吟  
メモ

# 詩情

○この月報三月号に、「吟じこむ……ことの大切さ」と題する一文が載せられていたが、このなかで、審査会における審査員の採点の基準が1詩情、2発音、3発声、4吟法、5音位、6態度で、詩吟は、まず詩情の表現がもっとも大切であるという。それには詩文の内容をよくつかみ、詩文を覚え、回数を重ね吟じこむ。そうしたらいつの日にか詩心にとけこんで、おのずと情感も湧くのでは……。以上がその主旨であるが、これはまさに吟詠の根本であるので、重ねてここに掲載させていた

○漢詩の本場中国では、古来漢詩の評論が盛んに行われ、詩の内容により、これを高・古・深・遠など九分類したり、唐時代には二十四種類にも詩品を分類して鑑賞に資した。ここでは現代的に、NHK(2)「漢詩をよむ」の石川忠久桜美林大学教授の漢詩の分類を一部掲げる。参考までに例題を付した。  
ア 自然(江南春) イ 旅(楓橋夜泊)  
ウ 風雅(山中月) エ 戦い(涼州詞)

オ 山水(富士山) カ 友情(別詩)

キ 花鳥(寒梅) ク 別離(易水送別)

○自然の詩はそれらしく、旅の詩はそれなりの、別離の詩はそれなりに、それぞれ情感を表わして吟ずるのが当然というもの。だから昇段審査では、段位に関係なく、例えば審査課題三題中から一題を自分で選び、自分の音程で吟ずることができれば一番いい。右見解は決して教本の主旨に反するものでないと思える。なお、教本では強吟と弱吟のあることを示してあるのに、迫力に重点を置くため、つい自分の音以上で吟ずるから、発声に気をとられて詩情の表現など及びもつかない結果を招くようである。

○私達会員は県本部に所属し、さらに岳風会総本部の組織下にある。従って、教場や自宅での吟の勉強は、頭初掲載の1から6までの順位を十分踏まえて取り組むべきであろう。吟法や音位や態度は、伝統ある中国及び日本の代表的詩歌を朗詠するという誇りを自覚すればおのずと事足りる。岳風会の審査の採点基準は全国共通である。ましてや吟者の声の大小良否などは、持って生まれた個人差があるのだから問題になるうはずがない。

(支部長交替)

一色B前支部長退会に付関水滄岳さんに交替

(入会)

617 市瀬江山(再) 藤沢市遠藤四六二八二

(大船A) 電〇四六六一四八〇三八三

618 荒谷易風(再) 逗子市桜山五十一二七

(若葉) 電〇四六八一七一一八二三九

619 坂田明子 逗子市桜山五十一三

(銀詠) 電〇四六八一七二一三五四三

620 橋本登美代 鎌倉市大船一八〇六一五一

(大船A) 電〇四六七一四四一五九〇一

621 嘉山シヅ子 横浜市戸塚区戸塚町

(大船A) 二四〇二〇二

電〇四五―八六二―四七〇三

(退会)

62 加藤朋岳(一色B) 297 柴山雪風(沼間)

393 瀧橋正山(諏訪) 599 葭山玲子(上原)

六月に入り、厚い雲に覆われ、早くも梅雨本番を思わせる空模様。昨日今日です。気温も低く、肌寒い夏のスタートとなり、とかくこの季節は体調がくずれやすいので、体に気をつけましょう。

診療を待つ間も雨の濃あじさい